

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22401042

研究課題名(和文) ケニアの農村と都市における法の公共性に関する社会人類学的研究

研究課題名(英文) Formal and informal justice systems in Kenya

研究代表者

石田 慎一郎 (Ishida, Shin-ichiro)

首都大学東京・人文科学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：10506306

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円、(間接経費) 4,020,000円

研究成果の概要(和文)：石田慎一郎(研究代表者)と松園万亀雄(研究分担者、連携研究者)はイゲンベ地方で、馬場淳(研究協力者)はティガニア地方で、草の根の紛争処理・回避に関する民族誌調査と、都市部の裁判所における紛争処理の実態についての資料調査を実施した。久保山力也(連携研究者)は、主要都市における性産業における紛争回避の実態について聞き取り調査を実施した。久保秀雄(連携研究者)は、ナイロビにおいて交通事故の処理に関する聞き取り調査を実施した。本研究は、ケニア国立博物館を受入研究機関として実施し、成果の一部を同博物館出版物として2015年4月に刊行した。ほか、研究成果を学術論文、国際学会口頭発表等において開示している。

研究成果の概要(英文)：This research project focused on the possibilities and challenges of indigenous systems of justice in local communities of Kenya, and their relations with the official systems. The project aims to: 1) accumulate an enormous amount of data on informal justice and the operation of indigenous law in local societies; 2) observe the operation of African customary laws under formal law; 3) examine how the formal legal systems are connected to the informal systems; and 4) discuss how alternative justice compatible with African perspectives can be possible in Kenyan legal pluralism. Intensive fieldwork was done in Igembe (S. Ishida and M. Matsuzono) and Tigania communities (J. Baba) and major towns (R. Kuboyama and H. Kubo). The four-year research project has been concluded with publication of a book, "Culture in peace and conflict resolution within communities of Central Kenya" (National Museums of Kenya, April 2015) and other journal articles and book chapters.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：社会人類学 法人類学 法社会学 ケニア 民族誌 国際研究者交流 国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

本研究でフィールドワークを実施するケニアでは、ほんらい高い公共性が付託されている行政、警察、学校教育そして法(司法を含む)において、不正や汚職が早急に解決されるべき国民的課題のひとつとされている。本研究は、とくに法に注目し、ケニアをはじめ現代アフリカ諸国で、法の公共性の基盤が非常に脆弱だとされる現状について、その原因を問う。ヴェルナー・メンスキー(Menski, *Comparative Law in a Global Context*, 2006)は、こうした現状を、裁判官や行政官の不正・汚職行為だけに還元して理解するのではなく、国家法における西洋法ヘゲモニーの残存や、グローバルな人権言説とローカルな社会規範との矛盾等を含めて考察した。本研究は、3つのリサーチ・フォーカスの設定により、以上の問題意識をケニア調査に敷衍し、確固たる基礎研究とそれに基づく応用研究にとりくむ。すなわち、紛争回避と紛争処理の両面に関する実証研究(RF1、RF2)のうえに、従来の紛争回避・処理メカニズムのいずれにも還元しえない法の新しい可能性(現状批判にもとづくオルタナティブ・ジャスティスの探究)、法への働きかけによる新しい社会構想の可能性を問う(RF3)。

2. 研究の目的

現代アフリカにおける法の公共性とは何か。本研究は、以下(1)(2)(3)のリサーチ・フォーカス(RF)を設定してケニアの農村と都市でフィールドワークを実施し、狭義のジャスティス(法)が広義のジャスティス(正義)に寄与するための課題、あるいは公正な社会に寄与する法の公共的な役割を解明する。すなわち、(1)紛争回避プロセスに着目し、日常的な人間関係の組織化をマイクロレベルで観察する実証研究にとりくむ。(2)公式・非公式の紛争処理プロセスに着目し、当事者対抗的な紛争処理によって結果的にもたらされる勝者と敗者、とくに後者の実証研究にとりくむ。(3)紛争回避・紛争処理のメカニズムに対する現状批判もふまえた、新しい社会構想の礎となる法の公共性を、オルタナティブ・ジャスティス研究の視点から問い直す創成的研究にとりくむ。

3. 研究の方法

本研究は、4年間にわたりケニアでフィールドワークを実施する。代表者と分担者は、これまで、ケニア国立博物館やナイロビ大学アフリカ研究所の研究者との協力体制のもと長年にわたって調査研究に取り組んできた。本研究は、これまでの実績のうえに、新たに連携研究者と研究協力者を加えて、上記研究目的により新たに組織する。ケニア国立博物館(メル博物館とキシイ博物館)を連絡拠点に定め、イースタン州ニャンベネ県・メル県とニャンザ州グチャ県・キシイ県の農村ならびに都市(地方裁

判所、弁護士事務所、農作物市場、警察署など)でフィールドワークを実施し、首都ナイロビ(国立公文書館、ナイロビ高等裁判所、国立博物館)では文献収集をおこなう。研究成果は、国際シンポジウム(ケニア国立博物館ならびに首都大学東京にて開催)ならびに論文集刊行により開示する。

4. 研究成果

石田慎一郎(研究代表者)と松園万亀雄(研究分担者、連携研究者)はイゲンベ地方で、馬場淳(研究協力者)はティガニア地方で、草の根の紛争処理・回避に関する民族誌調査と、都市部の裁判所における紛争処理の実態についての資料調査を実施した。久保山力也(連携研究者)は、主要都市における性産業における紛争回避の実態について聞き取り調査を実施した。久保秀雄(連携研究者)は、ナイロビにおいて交通事故の処理に関する聞き取り調査を実施した。本研究は、ケニア国立博物館を受入研究機関として実施し、成果の一部を同博物館出版物“Culture in peace and conflict resolution within communities of Central Kenya”として2015年4月に刊行した。本書は、ケニア国立博物館研究員ジュグナ・ギチュレをはじめとするケニア側研究協力者との共同事業の成果でもあり、ケニア国内の図書館、博物館、学校、研究機関、地域コミュニティに300冊を無料配布し、研究成果の現地還元をおこなう(これとは別に、日本国内ならびに海外の研究者・研究機関むけに100冊を配布する)。ほか、研究成果を国内外の査読制学術論文、国際学会口頭発表等において開示している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

Shin-ichiro Ishida, Egalitarian conflict management among the Igembe of Kenya, *African study monographs*, 査読有, supplementary issue, 2014, 印刷中.

石田慎一郎、書評：浜本満著『信念の呪縛：ケニア海岸地方ドゥルマ社会における妖術の民族誌』、図書新聞、査読無、3158号、p. 4。

石田慎一郎・吉元菜々子、コラプションの人類学：若干の覚え書き、人文学報、査読無、483号(社会人類学分野7)、2014年、pp. 43-49。

石田慎一郎、書評 Katherine Luongo, *Witchcraft and Colonial Rule in Kenya, 1900-1955*、アジア経済、査読無、LIV(3)、2013年、pp. 150-154。

Shin-ichiro Ishida, A confluence of alternatives: The merging of Mennonites and peace projects in Kenya, *Senri ethnological studies*, 査読有, No. 79, 2012, pp. 63-79.

石田慎一郎、海外文献紹介 Annelise Riles,

Collateral Knowledge: Legal Reasoning in the Global Financial Markets、仲裁とADR、査読無、7号、2012年、pp.94-97。

ヴェルナー・メンスキー著、石田慎一郎訳、イギリスの裁判所におけるイスラーム法：法の多元性をめぐる無知と無視について、マイノリティ研究、査読無、6、2012年、pp.27-49。

馬場淳、ジュリになるということ：ケニア・メル社会における長老評議会への加入に関する一考察、人文学報、査読無、453号（社会人類学分野5）、2012年、pp.83-100。

久保山力也、紛争解決システムのalternative問題：ケニア「ジュリンチェケ」にADRの可能性を見出す、青山法務研究論集、査読無、3、2011年、pp.83-102。

石田慎一郎、オルタナティブ・ジャスティス：法と社会の新たなパラダイム、民博通信、査読無、129、2010年、pp.28-29。

〔学会発表〕（計13件）

石田慎一郎、趣旨説明 アフリカにおける法の補助線、アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現に関する総合的地域研究第14回全体会議、2014年1月25日、京都大学。

久保山力也、Prostitutionにおける多元的正義と紛争管理の構造研究、アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現に関する総合的地域研究第14回全体会議、2014年1月25日、京都大学。

Shin-ichiro Ishida、Egalitarian conflict resolution among the Igembe of Kenya、The 17th world congress of the International union of anthropological and ethnological sciences、2013年8月7日、University of Manchester（英国）。

Shin-ichiro Ishida、Egalitarian conflict resolution among the Igembe of Kenya、International symposium on conflict resolution and coexistence（国際会議）、2013年10月6日、京都大学。

馬場淳、ジュリになるということ：ケニア・メル社会における長老評議会への加入に関する一考察、日本文化人類学会第47回研究大会、2013年6月9日、慶應義塾大学。

Shin-ichiro Ishida、Author Meets Reader: Collateral Knowledge: Legal Reasoning in the Global Financial Markets、International Conference on Law and Society (Law and Society Association)、2012年6月5日、Hilton Hawaiian Village（米国）。

Shin-ichiro Ishida、Giciaro: Mutual Expectations and Sanctions among the Igembe of Kenya、International Conference on Law and Society (Law and Society Association)、2012年6月7日、Hilton Hawaiian Village（米国）。

Rikiya Kuboyama、The Situation of Prostitution in Modern Kenya: From the Persp

ective of Conflict and Conflict Management、International Conference on Law and Society (Law and Society Association)、2012年6月7日、Hilton Hawaiian Village（米国）。

Jun Baba、Alternative Justice and Village Court in Papua New Guinea、International Conference on Law and Society (Law and Society Association)、2012年6月7日、Hilton Hawaiian Village（米国）。

Shin-ichiro Ishida、Legal pluralism in Kenya: A three dichotomy analysis、Toward a general theory of legal culture in a global context（国際会議）2012年3月26日、SOAS、University of London（英国）。

Shin-ichiro Ishida、A confluence of alternatives: The merging of Mennonites and peace projects in Kenya、International society for criminology、16th congress、2011年8月7日、神戸国際会議場

松園万亀雄、異文化を学ぶ——アフリカ農村の暮らしと人間関係、明石市人権大学講座（招待講演）、2011年6月22日、明石市生涯学習センター。

Rikiya Kuboyama、Conflicts and Conflict Resolutions of the Field of Sex-Business: Can the Law control It and Should It、East Asian Law and Society Conference 2011、2011年9月30日、延世大学校（韓国）。

〔図書〕（計10件）

Shin-ichiro Ishida、Makio Matsuzono、Jun Babaほか、National Museums of Kenya、Culture in peace and conflict resolution within communities of Central Kenya、2014、208頁。

落合雄彦編、石田慎一郎ほか、晃洋書房、アフリカ・ドラッグ考：交錯する生産・取引・乱用・文化・統制、2014年、242頁。

土生田純之編、石田慎一郎ほか、吉川弘文館、事典 墓の考古学、2012年、520頁。

松田素二・津田みわ編、石田慎一郎ほか、明石書店、ケニアを知るための55章、2012年、366頁。

『月刊みんぱく』編集部編、石田慎一郎ほか、丸善、食べられる生きものたち——世界の民族と食文化、2012年、119頁。

牟田和恵・平沢安政・石田慎一郎編、馬場淳ほか、大阪大学出版会、競合するジャスティス：ローカリティ・伝統・ジェンダー、2012年、389頁。

河合利光編、石田慎一郎ほか、時潮社、世界の食に学ぶ：国際化の比較食文化論、2011年、230頁。

ローレンス・ローゼン著、角田猛之・石田慎一郎監訳、馬場淳ほか訳、福村出版、文化としての法：人類学・法学からの誘い、2011年、209頁。

石田慎一郎編、馬場淳、久保秀雄ほか、大阪

大学出版会、オルタナティブ・ジャスティス：新しい〈法と社会〉への批判的考察、2011年、338頁。

Manfred O Hinz ed, Shin-ichiro Ishida ほか、Namibia Scientific Society、In Search of Justice and Peace: Traditional and Informal Justice Systems in Africa、2010年、463頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石田慎一郎 (Shin-ichiro Ishida)

首都大学東京・人文科学研究科・准教授

研究者番号：10506306

(2) 研究分担者

松園万亀雄 (Makio Matsuzono)

国立民族学博物館・名誉教授

研究者番号：00061408

(3) 連携研究者

久保山力也 (Rikiya Kuboyama)

青山学院大学・法務研究科・助教→名古屋

大学・法学研究科・特任講師

研究者番号：00409723

久保秀雄 (Hideo Kubo)

京都産業大学・法学部・助教→京都産業大

学・法学部・准教授

研究者番号：80378521

研究協力者

馬場淳 (Jun Baba)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文

化研究所・ジュニアフェロー

ジュグナ・ギチェレ (Njuguna Gichere)

ケニア国立博物館・研究員